

うた
ガザ＝ストロフーパレスチナの吟



PRIX EL ARD
AL ARD DOC
FILM FESTIVAL 2011

PRIX AHMED ATTIA
POUR LE DIALOGUE
DES CULTURES
MEDIMED

GRAND PRIX FRANCE TV
ENJEUX MÉDITERRANÉENS
PRIX INTERNATIONAL
DU DOCUMENTAIRE ET DU
REPORTAGE MÉDITERRANÉEN

PRIX DU JURY OFFICIEL
21^è FESTIVAL INTERNATIONAL
DU FILM D'HISTOIRE DE
PESSAC
CAT. DOCUMENTAIRE

PRIX DU JURY
DES JEUNES JOURNALISTES
21^è FESTIVAL INTERNATIONAL
DU FILM D'HISTOIRE DE
PESSAC
CAT. DOCUMENTAIRE

production
L'YEUX OUVERTS / ISKRA
DUBAI ENTERTAINMENT &
MEDIA OFFICE

avec la participation de
MEDIA GROUP

avec le soutien de
la fondation
UN MONDE PAR TOUS
la fondation
LA FERTHÉ

GAZA-STROPHE.
PALESTINE

un film documentaire de
SAMIR ABDALLAH &
KHÉRIDINE MABROUK

montage
KAHENA ATTIA

musique
ABBAS BAKHTIARI

production
MATTHIEU DE LABORDE



GAZA STROPHE PALESTINE

un film documentaire de
SAMIR ABDALLAH & KHÉRIDINE MABROUK

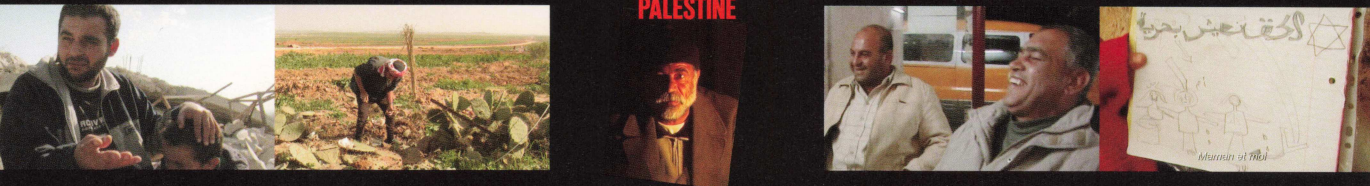


1948年から、ずっとカタストロフを大惨事生きてきた

受賞歴
エル・アルド賞 アル・アルド映画祭 2011年 / アハメド・アッテイア賞 第12回 MEDIMED / フランスTVグランプリ 第15回地中海国際ドキュメンタリー・ルポルタージュ映画祭
審査員賞 第21回ベサック国際歴史映画祭ドキュメンタリー部門 / 若手ジャーナリスト 審査員賞 第21回ベサック国際歴史映画祭ドキュメンタリー部門

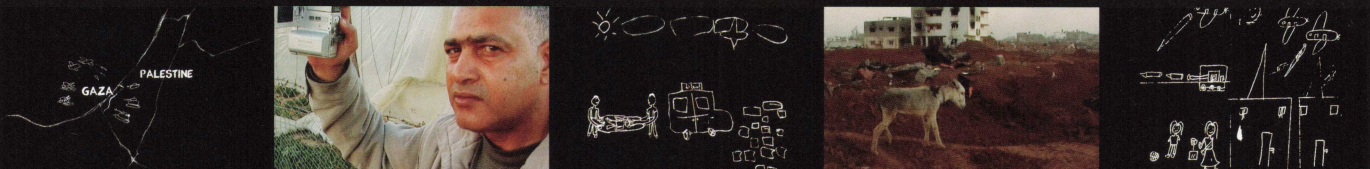
全ての宗教において 神の名は「平和」だ

GAZA STROPHE
PALESTINE



完全に人道を逸してしまっているイスラエル軍の殺戮はやはりジェノサイドと呼ばざるを得ません。それでもパレスチナの人たちは強く、想像を絶する悲惨な状況の中でも、死んでも故郷を離れないと話する人の姿に感激しました。

—— ピーター・パラカン（ブロードキャスター）



「すべては2023年10月7日にはじまった」のでは断じてない。
その証拠が、この映画にある。ありすぎるほど、ある。
ただ世界が「見なかった」だけだ。

—— 安田菜津紀

（メディア NPO Dialogue for People 副代表／フォトジャーナリスト）

彼らが語る言葉からは、嘆きと怒りばかりではなく、
そこかしこに冷静な知性と痛烈なユーモアが感じられる。
終盤に収められた、一人の老人による長いスピーチは、西洋が作り出した
「人権」や「人間性」という概念がはらむ欺瞞を厳しく告発したものであり、
『ガザ=ストロフ』を見る者に容赦なく自省を迫るだろう。（『NOBODY』より）

—— 中村修七（映画批評）



[INTRODUCTION]

2023年10月中旬、イスラエルによるガザ地区への軍事攻撃開始から10日後、監督のケリディン・マブルークからショートメッセージが届いた。「撮影から10年以上経ってもこの映画が今日的意義を持つとは思わなかった」と。

パレスチナの人々は常に西洋の視点から描かれ死亡者数という数に還元されてきたが、一人一人の顔を描き世界に伝えることがこの作品の第一の目的だったと振り返り、「パレスチナには世界の問題が凝縮さ

れている」と強調する。

本作はガザの地で生きる人々の姿を丁寧に描きながら、同時にパレスチナ問題の背景にある西洋諸国による二重基準、構造的暴力について浮かび上がらせる。

多くの人々が、これは明らかにジェノサイドだ、と声を上げる悲惨な状況が続く中（2024年9月現在）、人々の姿と歴史を知ることから変わる可能性を問いかける。

[STORY]

2008年12月末から2009年1月にかけてイスラエルによるガザの大規模侵攻が勃発。監督のサミール・アブダラとケリディン・マブルークは、停戦の翌日にパレスチナ人権センターの調査員と共にガザに入る。

爆撃で両親兄弟を失った子ども、目の前で家族を銃撃された男性、

土地を奪われ逃げてきた人々…「顔を持つ」一人一人の証言が記録されるとともに、パレスチナを代表する詩人、マフムード・ダルウィーシュの詩が引用され、ガザの人々が生きてきた歴史と記憶が呼び起こされる。

STAFF

監督・撮影：サミール・アブダラ、ケリディン・マブルーク／編集：カヘナ・アティア／音楽：アバス・バハティアリ／製作：L'Yeux Ouverts、Iskra
協力：ドバイ・エンターテインメント、メディア・オフィス／原題：Gaza-Strophe, Palestine／日本語字幕：二口愛莉／配給・宣伝：Shkran
2011年／フランス・パレスチナ合作／アラビア語、フランス語字幕／92分 © L'Yeux Ouverts / Iskra 2010

INFORMATION

ガザ・フェイス <https://gazadesvisages.com/>

2023年10月以降のガザ攻撃で犠牲になった人々の「顔」をリアルタイムで世界に発信するプロジェクト。本作両監督を中心に立ち上げた。



GAZA FACES



HP



X

限定上映

2025年10月20日(月)18時40分～

上映後トークイベント：配給団体 Shkran（本作配給）

UPLINK 吉祥寺

0422-66-5042 / joji@uplink.co.jp